# 03 小学校外国語活動・外国語と多様性理解

前田 康二

## 1 外国語を学ぶこと、英語を学ぶこと

人間が外国語を学ぶ究極の目的は、言語も文化も異なる他者と意思疎通を図り、平和的に共存するためであろう
（江利川, 2016）

### 1 英語という言語を学ぶこと

私たちは、他者と言語でコミュニケーションを図ることを通して、他者を理解し、友好な関係を築こうとします。外国語の習得は、より多くの人々を理解する術を持つことであり、世界の多様性を学ぶことを通して、よりよい社会を作るための有効な手立てです。日本の小学校、中学校、高等学校でも、「外国語」「外国語活動」が教育課程に位置付けられています。世界には数千という言語が存在しますが、ほとんどの学校では、英語が教えられていますので、多くの学習者は、外国語を学ぶ第一歩として英語を学習することになり、英語を通して異文化（もしくは自文化）との出会いを経験します。どの言語もその背景にある文化を色濃く反映しています。英語でのコミュニケーションには、英語圏の文化や英語特有の思考様式が影響を与えます。そういう意味では中立な言語は存在せず、英語も、世界で多くの人によって話されている言語ではありますが、その例外ではありません。教員になるに当たって、みなさんは、大学では、可能な限り英語以外の言語も学習し、世界を多面的に理解する手段を一つでも多く持つとともに、英語や英語によるコミュニケーションの特徴を相対的に理解しておくことが大切でしょう。

このことを踏まえつつ、次に英語の多様性に焦点を当ててみましょう。英語は様々な国や地域で学ばれ、使用されているため World Englishes（世界の諸英語）と呼ばれる様々な英語が存在します。しかし、例えば英語を母語とする人と母語でない人の学び方や目的はおのずと異なります。みなさんがこれまで学んできた、また、教員になって指導する英語はどこに位置づくものなのでしょうか。表１は、英語がどのように習得され、使用されているのかについての分類です。

表１　英語の分類　　久村(2017)をもとに作成

| 分類の観点 | 英語の種類 | 概要 |
|---|---|---|
| 習得方法<br>使用形式 | ENL(English as a Native Language) | 英語を母語とする話者の英語 |
| | ESL(English as a Second Language) | 学校や日常の場面で英語が使われている社会で、英語の非母語話者が学ぶ英語 |
| | EFL(English as a Foreign Language) | 日常生活の場面では使われないが、学校で教科として学ぶ英語 |
| コミュニケーション場面 | 国際語としての英語<br>(EIL: English as an International Language) | 国際的な会議・集会や商取引などで国際コミュニケーション言語として使われる英語。 |
| | 共通語としての英語<br>(ELF: English as a Lingua Franca) | 特に複数の英語の非母語話者間で共通のコミュニケーション言語として使われる英語。 |

ENLとは、イギリス、アイルランド、アメリカ合衆国、オーストラリア、ニュージーランド、カナダといった英語圏で使用されている英語です。ESLとは、インド、ナイジェリア、フィジーなど英語を公用語・通用語などにしている国や地域で学ばれ使用される英語です。話者にとって母語ではありませんが、主に公的な場面で日常的に使用するため、母語に近いレベルまでの習得が必要になります。EFLとは、日本、中国、韓国、ヨーロッパ諸国など、日常生活での使用場面は限られているけれども、学校の教科として学習しているケースです。ここでは、仕事で使うため、学習に必要なため、教養をつけるためなど、目的は様々です。目標とする到達レベルも一定ではなく、必ずしも英語母語話者に近づくことを目指す必要はありません。もちろん、これらの分類は国や地域で単純に分類できるものではなく、学習者個人によって異なります。

また、言語使用の場面について、EILやELFという考え方はともに、共通語としての英語使用に焦点を当てたもので、そこでは、互いに理解可能な英語を使用することが求められますが、使用する英語の中には、発音や文法、語彙、ジェスチャー、コミュニケーションの図り方などそれぞれの話者の母語や文化の特徴が存在することを互いに認めていく方向性をもっています。
英語をどのように使用することを目指すのかによって、学び方も変わってきます。皆さん自身の学習の目的や、教員として英語を指導することになる人たちは自分が指導することになる児童等の学習の目的を考えてみましょう。

### ❷ 外国語を通して文化を学ぶこと

学校における外国語学習の目標の１つの柱は、文化に対する理解を深めることですが、文化とは何かについて、例えば塩澤(2010)は「簡単に言えば、文化とは『ある特定の人々がある特定の時期に共有する考え方、行動パターン、その生活空間などの総体』であると言えよう」と述べています。異文化という言葉を聞くと外国の生活、習慣だけを想像してしまいがちかもしれません。異文化とは、主に、自分が属する民族とは別の民族がもつ文化を指すわけですが、日本国内で生活する民族の多様性を考えても、国内、国外にかかわらず異文化理解の必要性はあるといえます。また、文化を同一の思考・行動様式をもつ集団の単位で捉えるとき、人は民族だけでなく、居住地域、仕事や学校、年齢、ジェンダーなどにより、それぞれの文化を形成しているとも言えます。これらは下位文化と呼ばれ、外国語によるコミュニケーションを通して相手の文化を学ぶとき、これらの要素も含めて理解する必要が出てきます。人はそれぞれが属す様々な集団や組織、地域等によって、同じように見えても少しずつ異なる文化を持っていると言えますので、言語を通して文化を学ぶ外国語学習においては、特に文化を国や民族でステレオタイプ化して理解してしまわないように、留意する必要があります。また、日本の学校教育のようにEFL、EIL、ELFとして英語学習をする場合は、英語を通して、英語圏を中心とする人々の文化に偏ることなく、世界の様々な人々の文化を学ぶ姿勢をもつことが大切でしょう。

なお、具体的に外国語教育で扱う文化として、以下のようなものが挙げられます。

表２　外国語の授業で扱う文化要因の分類　　塩澤(2010)をもとに作成

| | |
|---|---|
| 1 | コミュニケーション・スタイル・ストラテジー・・・会話のルール、方略的・社会言語的能力など |
| 2 | 周辺言語・・・あいづち、擬態語、トーン、ボリューム、沈黙など |
| 3 | 非言語コミュニケーション・・・身体動作学、近接学、接触学、対物学、視線学など |
| 4 | 価値観とそれに基づく行動パターン・・・集団と個人、競争と協調、伝統と変化、形式と自由など |
| 5 | 生活習慣と社会機能・・・生活スタイル、宗教、家族関係、マナー、ステレオタイプ、衣食住など |
| 6 | 情報文化と達成文化・・・地理的・歴史的情報、美術、文学、音楽など |

言語と文化は密接な関係にありますので、言語を学ぶことは文化を学ぶことでもあると言えます。また、外国語によるコミュニケーションを通して、私たちは異文化の人と関わりをもち、文化を理解することでより良い関係を築いていこうとします。さらに、円滑にコミュニケーションをとろうとすれば、文化に対する背景知識やコミュニケーションスタイルに対する一定の理解が必要になります。世界の多様な人々が共生する社会の実現に向けて、外国語を通して異文化とその多様性を理解することは少なからぬ役割を担っているでしょう。

## ２　多様性理解の視点～小学校学習指導要領（文部科学省，2017）から～

小学校外国語科でどのような多様性理解の視点をもつことが考えられるのでしょうか。このことについて小学校学習指導要領の外国語の目標には以下の記述が見られます。（※目標は一部抜粋、下線は筆者が追加）

第１　外国語の目標

<u>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ</u>，外国語による聞くこと，読むこと，話すこと，書くことの言語活動を通して，コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(2)コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，身近で簡単な事柄について，聞いたり話したりするとともに，音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり，語順を意識しながら書いたりして，<u>自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う</u>。

(3)<u>外国語の背景にある文化に対する理解を深め，他者に配慮しながら，主体的に外国語を用いて コミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</u>

「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」とは、「外国語で表現し伝え合うため，外国語やその背景にある文化を，社会や世界，他者との関わりに着目して捉え，コミュニケーションを行う目的や場面，状況等に応じて，情報を整理しながら考えなどを形成し，再構築すること。」であると、学習指導要領解説は述べています。

小学校外国語活動・外国語科を通して児童は、外国語でコミュニケーションを図ることで、母語でコミュニケーションをする際には意識されていなかった、言葉ひとつひとつに注意を向け、相手の伝えようとしている内容を理解したり、相手が発したメッセージの意味を、文化や思想、価値観などその人の背景を考慮しながら推測したりすることを経験します。このことは、国際交流のみならず、学級の友だちとの会話にも当てはまります。日常生活に関する話題などについて、考えや気持ちなどを伝え合うことを通して、友だちについてこれまでの学校生活では気づいていなかったことに気づくことができます。児童に、学級や生活する社会、そして世界のより多様な生き方考え方と出会わせ、言語でコミュニケーションをする際の難しさと大切さを感じさせながら、言語によるコミュニケーション能力を育成することを目指します。

学級の友だちとの間での自己表現活動を通して互いを理解していく活動に加え、特に高学年では、「行ってみたい国、見てみたいもの」や「世界の学校と子どもたちの生活」など視野を世界へ広げることを意図する教材や「日本の伝統行事」や「世界で活躍する日本人」など 日本の文化などにも目を向けさせる教材を取り上げることが考えられます。このような教材を扱う際には、ＩＣＴを用いた国際交流活動や、ゲストティーチャーを招いての交流などと組み合わせながら、体験的な理解を促すように工夫すること、文化の解釈がステレオタイプに陥らないこと、英語の場合、英語圏の文化に偏らないことなど十分に留意が必要です。また、「公正な判断力を養う」ことについて、学習指導要領解説では以下のように説明されています。

> グローバル化が進展する中で，児童は多様な文化や価値観をもった人々と出会うことになる。そのような社会で生きていくためには，多様な考え方を理解し，柔軟に対応することや，公正な判断力を養い，相手の状況や立場を共感的に理解できる心情を育てることが大切である。そのためには，児童が，様々な人々の行動や考え方等が示された事例などに接することが大切となる。それらの事例を通して，相手の状況や立場を共感的に理解できる心情を育てていくことが可能となる。児童の発達の段階に配慮し，分かりやすい事例や活動を含む教材を選ぶことが大切になる。

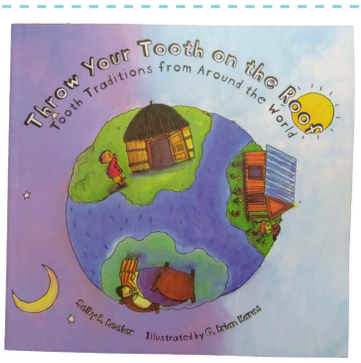
また、外国語においては、「英語を履修させることを原則とする」としていますが、他の言語の学習機会の提供についても同様に重要です。中学校以降への接続等を考慮すれば英語を履修させる学校がほとんどであるのが現状ですが、英語を通じてより多くの言語や文化に触れる視点を持つことが大切です。

さらに、他教科での指導内容との関連による指導の視点としては、例えば道徳の「相互理解・寛容」や「国際理解・国際親善」などとの関連が考えられます。このような点も考慮しながら、外国語を通して、学級の多様性、世界の多様性を児童が理解し、互いを認め合いながら生きる力をつけていけるよう支援したいものです。

## 3　多様性理解の実践～絵本の読み聞かせから～

絵本の読み聞かせは、特に年少の学習者にとっては適した学習手段であり、小学校の外国語活動ではしばしば活用されています。教員が時には繰り返し読み聞かせることで、児童は外国語の音声によるインプットを得ることができます。また、絵本は、リズムよく韻を踏んでいたり日常で使われる表現が使われていたりすることが多いことや、児童が教員の後に続いて声に出して読んだり、絵から書かれている単語、表現の意味やストーリーを推測したりしやすいことなども言語習得にとって有効です。また、絵本の読み聞かせを通して、児童は共感を得たり、新しい知識や視点を獲得したりすることができます。
ここでは、小学校外国語（英語）での多様性理解の取組の教材として使うことが考えられる、１冊の絵本を紹介したいと思います。

“Throw Your Tooth on the Roof:
Tooth Traditions from Around the World”
Selby B. Beeler 作　G. Brian Karas 絵




皆さんは乳歯が抜けた時にその歯をどうしましたか？タイトルにもあるように、抜けた歯を屋根に投げ上げたりすることは、アジアの他の国やアフリカなどにもみられる風習だそうです。永久歯に生え変わる経験は、民族にかかわらず子どもたちが経験していることですが、「枕の下に入れておくと、寝ている間に妖精が来てお金に換えてくれる」「コップに水を入れてつけておけば、ネズミが持って行ってくれる」など様々な言い伝えや風習が世界にはあるようです。このような世界の国や民族の「乳歯が抜けた時にどうするのか」を65例紹介しているのがこの絵本です。

授業では、絵本の表紙やタイトルを見せながら、児童自身の体験を思い出させます。次に、絵から内容を想像させながら聞かせ、いくつかの表現については、教員の後について児童に繰り返させながら、慣れ親しませます。その後、児童が読むページを分担して、それぞれのページの読みを練習し、順番に読み聞かせをしていくことも考えられます。方法を変えながら何度か読み、音声による十分なインプットを与え、内容や言語についての理解を促進していきます。絵本の読みが終わった後、ペアやグループになり、抜けた乳歯を自分たちはどう扱うのかについて、それぞれ絵を描き、絵本で出てきた表現を使いながらその絵を紹介する形で話させます。事前に宿題として家族から聞いてこさせると、紹介する内容が深まるでしょう。乳歯が抜けた時の慣習については、日本でも、地域や家庭によって様々で、動作が同じでもそれぞれに違うかけ声をかけたりすることもあるようです。児童が紹介するものは、同じかもしれませんし、

少しずつ違うかもしれません。絵本の読み聞かせを通して、世界の多様な文化を知ると同時に、児童それぞれの体験等を伝え合うことで、一見同じ文化を共有しているように思える学級の中にも、様々な生活様式が存在することを学ぶことができるでしょう。同時に、学習を振り返る際には、風習は違っても、乳歯から永久歯に生え変わるという成長の通過点に行われるそれぞれの行為に込められた思いについて考えてみるのもよいかもしれません。

---

**文献**


江利川春雄 (2016)『英語と日本軍―知られざる英語教育史』NHKブックス.

塩澤正 (2010)「言語と文化」 塩澤正・吉川寛・石川有香編『大学英語教育学会監修英語教育学大系　英語教育と文化　異文化間コミュニケーション能力の育成』大修館書店 pp. 3-24.

塩澤正. (2010)「異文化理解と英語教育」 塩澤正・吉川寛・石川有香編『大学英語教育学会監修英語教育学大系　英語教育と文化　異文化間コミュニケーション能力の育成』大修館書店 pp. 25-49.

久村研 (2017)「外国語教育の目的と意義」JACET教育問題研究会編『行動志向の英語科教育の基礎と実践-教師は成長する-』三修社 pp. 10-24.

文部科学省 (2017)『小学校学習指導要領』.

文部科学省 (2017)『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説　外国語活動・外国語編』.

Beeler, Selby., & Karas, Brian. (1998). *Throw Your Teeth on the Roof: Tooth Traditions from Around the World*. N.Y. : Houghton Muffin Company.